



Kero Kero 通信

第 295 号



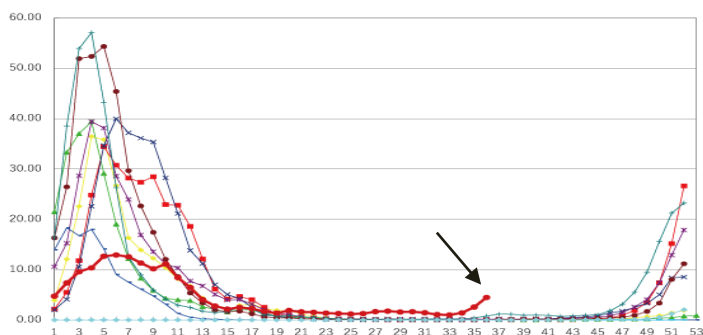
崎山小児科・院内報

10 月 2023 年

インフルエンザの流行が始まりました。

2 学期が始まった頃から崎山小児科でもインフルエンザの子どもたちが増えました。学級閉鎖も散見されます。新型コロナのように多くの人が免疫を持っていない病気が季節を問わず流行する可能性があります。今流行しているインフルエンザは新型ではなく、以前からある古いタイプのインフルエンザウイルスです。なぜ、例年と異なり、このような暑い時期に流行するのでしょうか。

2020 年以降の新型コロナ対策で、コロナにかからないように 3 密を避ける、マスクをする、手洗いをするなどの感染予防対応が徹底されたために、ここ 3 年ほどインフルエンザの流行はほとんどなく、インフルエンザに身体が晒されない状況が続いていました。そのために多くの人たちのインフルエンザに対する免疫力が下がってしまったのです。免疫力とは「病気を予防する力」ではなく、「一度罹ったことのある病気に対して、2 回目以降を軽く済ませる力」のことです。また、すでに免疫を持っている病原体が再度身体に入ると、その人の既存の免疫力がさらに強まることもわかっています。ここ数年、インフルエンザが流行しなかったために、以前から持っていた免疫力を強くする機会がなく、インフルエンザに対する免疫力が弱まってしまったのです。どうやらそのために、大人も子どももインフルエンザにかかる人が増えたようです。



このグラフの横軸は左から 1 月 1 日、右が 12 月 31 日の一年間、縦軸はインフルエンザの患者数とお考え下さい。だいたい、毎年 12 月頃から患者数が増えて、1 月 2 月がピークになります。今年は、矢印で示したように、9 月のうちから患者数の増加がみられています。

少しでもインフルエンザの免疫を獲得するために、今シーズンはいつもより早めにインフルエンザワクチンを受けることをお勧めします。

読書の秋 大人も子ども一緒に絵本をどうぞ

日の入りが早くなり始め、秋の虫も鳴き始めたりと秋の訪れを感じる季節になりました。夏からの残暑疲れもあり、少し体を休めたい季節でもあります。その時にお勧めなのが読書です。読書と書かれると苦手がでたり、時間が…となりがちですが、絵本はどうでしょうか？絵本は「子どもがよむもの」とイメージされますが、最近は大人も子ども楽しめる絵本がたくさんあります。

絵本はいつの時代でも親子のコミュニケーションのツールとして使われますが、最近絵本もただ読むにとどまらずストーリーや登場する者達について親子間で対話していく方法も注目されています。どうしてそう思ったのか、そこで本人はどう思ったのか。その対話の中に明確な答えはなくても自身で考える力とそれを言葉にする力が身につけてくるといえるものです。そしていずれ一人て本が読めるようになったときに、話の表層をなぞるだけでなく、「自分なりの感想」を持ちやすくなります。つまり「考えながら情報に接することの力」になっていくのだそうです。ただ、質問攻めにしたり、保護者の意見を強要する、またはしつけの媒体に絵本を使うようになってくると本来の一緒に本を読むという行動が子どもを本から遠ざける結果になる恐れもあります。

最初にあります、今は大人も絵本楽しめるものがたくさんあります。子どもは大人が楽しんでいる、または一緒に楽しむことが大好きです。例えば、自身が子どもの頃に読んでいた絵本と一緒に読んだり、逆に子どもからのおすすめ絵本と一緒に読んだり、新規開拓しに子どもと一緒に本屋さんに行くとかたくさん絵本があり散財します(笑)

ちなみに我が家は自分が小さいときに読んでいた絵本が実家に 2 冊残っていたので子どもに渡して読んでいました。「ふしぎなかばん」と「ちいさいモモちゃんあめこんこん」です。あと、「しょうぼうじどうしゃじぶた」は子どものとき読んで好きだったので買って読んでいます。図書館なども有効活用しながらぜひたくさん読んでみてください。

この秋、素敵な絵本に出会えますように。いい本がありましたら教えてください♡。

看護師 みしま



崎山先生の当番日

『府中市市民保健センター』042-368-5311

10/8(日)・10/26(木) 夜間診療(19:30~22:00)

ケロケロひろば 10 月・11 月・12 月はお休みします。再開時にはぜひあそびにきてね。